

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	地域をまきこむ子育て事業	【No. 1】
申請団体	なかまみーず	
事業目的等	<p>大野中地域で子育てしている母親同士の繋がりをつくり、子育ての支援拠点とする。 子育ての現状について学びあい、地域で子育てをする意識を高める。 地域をまきこみながら子育てを応援する人材を育てる。</p>	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	339,000 円 (全体事業費 339,000 円)	
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの絵カレンダー発行 作成・配布(年6回) ・公園マップ作成・配布(年4回) ・親子交流会の実施(昔あそびの会6月、誕生学の会 10月) ・命について考える事業「命の講座1月、2月」「エコナプキンを作ろう12月」 <p>◇ 自己評価</p> <p>計画していたカレンダー・マップの発行や講座を実施することができた。 事業参加者を子育て中の母親だけでなく、保育者や地域の方々まで広げることができた。また、このような場が必要であることを確認できた。 今後、地域で活動できるメンバーを増やしていきたいと思っており、地域に密着した広報の仕方や口コミの仕方を考えていきたい。</p>	
市評価	<p>子育て中の母親を応援する視点で、子どもが育ちやすい環境を地域住民と母親がともに作り合える事業として展開できている。 人材育成については、スタッフ側の「意識向上」と参加者側の「地域の一員としての意識向上」が図られている様子が伺える。 地域で活動するメンバーの増員や参加者への呼びかけについては、広報等PRの方法について具体的に相談に応じていきたい。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	「木もれびの森」も一つと知っとこ！事業	【No. 2】
申請団体	「木もれびの森」も一つと知っとこ！プロジェクトチーム	
事業目的等	近隣小学校との連携により「木もれびの森」を環境や自然教育の場として活用し、自然観察や体験学習を通して、自然に触れ、森への関心を高め、身近な緑を大切にする心を育むとともに、次世代を担う人材を育成する。	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	220,000 円	(全体事業費 220,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの森の自然観察や体験学習の実施及び観察日記の発行(全14回) ・「木もれびの森の妖精たち写真展」開催(小学校及び公民館まつりで5回、写真入れ替え4回) ・木もれびの森カレンダーA3 6枚綴りを60部作成・配布 ・ムサシアブミ生育エリアの整備、看板設置 <p>◇ 自己評価</p> <p>2年目の活動でもあり、自治会内のサークル・団体が上手く連携し、計画どおり事業を推進でき、昨年度以上の効果を上げることができた。</p> <p>地区内の「公民館まつり」で写真展を開催、集客効果も上がり、より多くの区民に「木もれびの森」に残された自然、保存活動の重要性についての理解が進んだ。</p> <p>木もれびの森カレンダーを、多くの区民が利用する公共機関・学校・幼稚園・病院などに配布し展示してもらえたことで、年間を通して関心を寄せてもらえるものと期待できる。</p>	
市評価	<p>目的である「近隣小学校との連携による木もれびの森の環境や自然を学ぶ教育の場として活用すること」の実践が更に拡大推進している。</p> <p>また、より多くの地域住民に「自然観察や体験学習、写真展などを通して、自然への関心と身近な緑や生き物を大切にする心を育む」事業を展開し、次世代を担う人材の育成に取り組んでおり、人材発掘にも期待する。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	西一パワーUP!事業	【No. 3】
申請団体	自治会法人 西一自治会	
事業目的等	<p>住んで良かった西一、心に残るふるさと西一、そして安全・安心のまちづくり。このことを支える地域力と地域コミュニティの形成を図る。</p> <p>また事業を通して地域の高齢者世帯の孤立防止への目配りが出来る環境づくりを目指す。</p>	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	221,000 円	(全体事業費 321,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> * 集団資源回収 毎月1回 * 青パトによる防犯パトロール 週2~3回実施 * 今年度から巡回エリアを大野中地区全域に変更したことにより、大野台小学校の通学路以外にも大野台地区、大沼地区にも範囲を拡大し、特に振り込め詐欺防止を重点的にパトロール実施。 * 環境問題への関心が高まり、アダプト制度による美化活動参加の意識も揚がってきている。 <p>◇ 自己評価</p> <p>立ち上げ当初と比較し、着実に参加者・活動推進協力者が多くなってきている。</p> <p>まず、当面は、地域の高齢者の見守りに繋がるような活動を進める。そして最終的に各自治会員全体の意識を高め“西一防災ボランティア(中学生以上)”の組織をつくることまでいきたいと考え、少しずつ階段を上がり始めた。</p> <p>この思いに賛同され、側面からの協力を約束された方も出てきた。</p>	
市評価	<p>地域内の防犯パトロールが週2~3回と頻繁に行ったことで、犯罪の少ない地域となってきた。</p> <p>今後は、更に地域高齢者の見守りに繋がるような活動をするとのことで、その成果を期待する。</p> <p>また、防災ボランティアの組織づくりにも取り組まれることは、地域としても大変に心強く、是非推進していただきたい。</p> <p>担い手の育成面では、側面からの協力者も出てきており、目標を着実に推進しているものと評価できる。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	高齢者家庭支援事業	【No. 4】
申請団体	ライフサポート“ありがとうの会”	
事業目的等	<p>当団地(グリーンハイツ)は、今後一段と高齢化が進むことが確実で、支援を要する家庭が増加することから、当会では、介護保険等行政の支援が及ぶ前の段階や行政の支援が必要な場合に、それを補完する形で高齢者等への支援を行うもの。</p> <p>また、当団地以外でも支援を必要とするところがあり対応可能なところであれば伺いたい。</p>	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	140,000 円	(全体事業費 226,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者家庭等への火災報知機の取付、ワイヤレスチャイムの取付、家具転倒防止工事等の実施。 ・一般ごみ・粗大ごみの処理、庭の手入れ、電球の交換等日常生活の手助けとなる作業の実施。 ・支援活動を通して自治会への参加の必要性をPRし、加入促進の声かけを行った。 ・更に支援内容の充実及び活動の継続性を図りながら賛同協力員の呼びかけも行った。 <p>◇ 自己評価</p> <p>支援事業も順調に軌道に乗りつつあり、会員の皆様には喜んでいただき、まずは成功と思う。</p> <p>会員・協力員ほかの意見を汲み取り、更に充実した内容となるよう努力したい。</p> <p>今後は更に高齢化が進む中、自治会協賛活動等で賛同会員・協力者を募り、支援活動の円滑な運営に供したい。</p>	
市評価	<p>高齢者等への支援や見守り活動の中で、協力員や会員相互の親睦も深められ、会の支援活動が認知されてきている様子が伺える。</p> <p>自治会加入促進の啓発活動としても徐々に理解が得られつつあるので、引き続き自治会との協力体制で、工夫し取り組んでいただきたい。</p> <p>今後は、支援内容の充実とそのため協力者の充実を図り、活動が継続して行われるよう期待する。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	木もれびの森の落ち葉の資源循環プロジェクト事業	【No. 5】
申請団体	環境ステップアップの会 & NPO法人相模原こもれび	
事業目的等	<p>落ち葉を腐葉土にし、資源として地域内で循環できれば、落ち葉を焼却することなく有効利用できます。</p> <p>腐葉土は畑やベランダ菜園等でも利用でき、生ごみ堆肥を作ることもできます。</p> <p>腐葉土の使い方を多くの人に提供することによって、生ごみの焼却が減り、ごみの排出制限も図れます。</p> <p>環境の保護・保全に関心を持つ人が増えることによって、木もれびの森の保全活動にも寄与します。</p>	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	265,000 円	(全体事業費 265,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的に同様の事業に取り組んでいる志木ニュータウンの「何でも回収袋」による腐葉土作りを視察。(7月) ・落ち葉集積枠作り(12月) ・落ち葉集め(12月～2月に4回) ・腐葉土を使った生ごみ堆肥作りの説明会(1月) ・放射線量測定(10月から毎月1回実施) ・大野中公民館まつりにて「プロジェクトの説明と放射線量測定結果を展示」(3月) <p>◇ 自己評価</p> <p>福島第一原発の事故の影響が事業に多大なる影響を与え、安全性が確保できない状態で、地域に事業を広めていくのに支障をきたした。しかし、環境保全を考え、行動していく団体同士が連携することにより、状況に応じたより良い環境保全を行っていくことが地域の安全に繋がることを確信できた。</p> <p>地域の宝である木もれびの森の保全を考えていく上で、放射能汚染対策は欠かせないこととなった。安全性を確認し、木もれびの森の資源である落ち葉の循環を検討していく。</p> <p>今年度の事業効果はまだ出ていないが、「NPO 法人相模原こもれび」と「環境ステップアップの会」との連携により、一団体ではできないことや事業展開ができたこと、各団体の取り組みを理解し合い、落ち葉の腐葉土を活用し資源循環型のまちづくりに生かしていける確信が持てたことは大きな成果でした。</p>	
市評価	<p>落ち葉を腐葉土にし、資源として地域内で資源循環をする取り組みをされており、初年度に腐葉土ができなかったのは残念である。</p> <p>そのため初年度は腐葉土作りの場所の確保、入れ物の購入、囲い等に投資し、次年度に着実に完成し資源循環できるよう進めて欲しい。</p> <p>更に腐葉土の使い方をより多くの人に提供できるよう努力願いたい。</p> <p>平成24年度には東京大学助教授小豆川勝見先生に、木もれびの森の汚染状況の把握及び解説、今後作った腐葉土の安全性の確認などを行うとのことで、その状況を見守りたい。</p> <p>放射能の問題は長くかかることだが、地道に毎月測定し、安全確保に努められたい。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	命を支える医療キットプロジェクト	【No. 6】
申請団体	医療キットプロジェクトチーム	
事業目的等	高齢者の一人暮らし、昼間孤独高齢者及び障害者の緊急救命支援と自治会未加入者の加入促進を目的とするものです。	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	70,000 円	(全体事業費 70,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会員87世帯、非自治会員120世帯、昼間一人暮らし高齢者29世帯に理解をいただき医療キットを配付することができた。 ・訪問時に、当事業の趣旨を説明し、合わせて自治会未加入世帯には自治会の必要性をPRし加入を進めた。 <p>◇ 自己評価</p> <p>今回の事業は、高齢者の方に特に喜ばれ、やりがいもあった。 賃貸住宅に住んでいる方への当事業の理解も多く得られ、地域の実態の把握や交流を進めることができた。 今年度は非自治会員からの問い合わせが多く、自治会加入を勧めた結果、必要性を感じてもらい、わずかではあるが数世帯の加入が実った。</p>	
市評価	<p>高齢者の一人暮らしや昼間孤独高齢者及び障害者の緊急時の救命支援として、大変重要な事業である。 自治会加入促進の点でも地道にしっかり推進できており、当事業の成果があったものと評価できる。 事業全体として、自治会と民生委員児童委員との協力体制が確立され、この事業を推進できたことは地区の財産である。今後も協力体制を維持し高齢者等の生活の安全及び自治会加入促進が図れることを期待する。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	町火消「大野台消防団づくり」事業	【No. 7】
申請団体	大野台地区消防団設立委員会	
事業目的等	大野台地区の地域消防力・防災力の整備と強化を図る。	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	150,000 円	(全体事業費 150,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、①詰所候補地の選考絞込み ②団員の確保に向けた啓発活動やのぼり旗の活用を行った。 ・消防部局との調整、そして役員会(4回開催)や設立委員会(2回開催)を通じて、団員の応募状況や詰所の候補地選定を協議した。 ・年度末には県消防学校・県防災センターを、委員並びに団員候補者で視察を行った。 <p>◇ 自己評価</p> <p>今年度は、昨年からの募集し応募があった8名に加え、あと4名の確保に尽力。夏までに目的を達成することができた。</p> <p>地域住民の自主防災意識の高揚が図れ、団員募集に関しては20歳代から30歳代の若者だけでなく、50歳代から60歳代の中高年まで幅広い応募があり、地域防災の担い手の育成につながっており、大きく前進できた。</p> <p>詰所用地は、候補地の選定絞込みができ、正式に市へ要望することができた。</p>	
市評価	<p>全市的に担い手が少ないと団員確保に苦慮の中、半年間で12人の応募があり、のぼり旗やかわら版によるPR効果があったと感じる。</p> <p>市では、市消防団との協議を行い、承認が得られた。また団部設置及び詰所整備の要望を受け、庁内調整も進められており、できるだけ早期に整備できるよう所管部局に働きかけていきたい。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	大野中地区青少年活動支援事業 【No. 8】
申請団体	大野中・大沼合同JLC(ジュニアリーダークラブ)
事業目的等	各公民館区の枠を越えた青少年交流活動を行うことにより、連帯意識を高める。 各公民館活動や地域の情報を共有し、相互の活動に参加するきっかけをつくる。
交付決定日	平成23年 7月20日
交付決定金額	200,000 円 (全体事業費 200,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会を年4回実施。中高生の参加は述べ44名で、オブザーバー参加を認めた小学生のJL養成研修生の参加は述べ24名であった。 ・研修の内容は、ゲーム体験、ゲーム指導体験、バルーンアート研修のほか、ワークショップ形式で「リーダーを考えよう」、「目的意識を持って活動しよう」等のテーマで研修を行った。 <p>◇ 自己評価</p> <p>大野中公民館区と大沼公民館区の中高生JL及びJL養成研修生の小学生が交流できたことは評価できるが、当初計画の大野台公民館区の参加については、働きかけをしたが3館区合同での交流会実現までには至らなかった。</p> <p>また、中高生は学校やクラブ活動などの行事が忙しく、土曜日の午前中という今回の活動日には都合がつかない中高生が多く、参加人数は見込みより相当少なかった。</p> <p>今後の活動に向けては、これらの点を考慮し、計画しなければならないと考えている。</p>
市 評 価	<p>目的である「公民館区を越えた交流活動で、青少年の連帯意識の高揚」、「各公民館の活動や地域の情報共有と相互の活動参加へのきっかけづくり」が着実に推進されている。</p> <p>大野中・大沼両公民館区の青少年の交流活動ができたことは評価できる。今後は、大野台公民館区の人材を育成してJLCの組織化が図れるよう期待する。最終的には、大野中地区全体での交流活動を促進されたい。</p>
備 考	

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	自治会加入促進事業『大野中！地域カパワーUP事業』	【No. 21】
申請団体	大野中地区自治会連合会	
事業目的等	多くの区民に自治会活動の理解と未加入者の加入促進を図る。 地域リーダーである自治会長が課題や問題点を共有し、解決策を見出し取り組むことにより地域の活性化を図る。	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	700,000 円	(全体事業費 700,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長懇談会の実施(年2回実施) ・自治会加入促進活動(年5回実施) <p>パネル展示、自治会クイズの実施、アンケートの実施</p> <p>①ふるさとまつり(10/16)、②大沼公民館まつり(11/12)、③イトーヨーカドー2階サンデッキ(11/19)、④大野中公民館まつり(24/3/3)、大野台公民館まつり(24/3/10)</p> <p>◇ 自己評価</p> <p>活動も2年目に入り、パネル展示やクイズに参加いただく方法など工夫できた。 今年度初めて大型店でのブースを設置、買い物客や家族連れに積極的に声かけができた。 自治会長懇談会では、年2回行ったことでより具体的に対策を話し合うことができた。 まとめ紙と加入促進用のチラシ作成で、今後の自治会活動と未加入者への働きかけが一層進むものと思う。 ただ作成が遅れがちであったため、来年度は早めの計画を進めていきたい。</p>	
市評価	<p>ふるさとまつりや公民館まつりでの自治会加入促進活動は、ある程度自治会の活動を知るきっかけとなったと思う。</p> <p>また、大型店での自治会加入促進活動は、未加入者も多く行き交う場所で、アンケートにも多くの方に協力いただき自治会への認知度を高めることができ効果があった。</p> <p>今後は更に一歩踏み込んで、未加入者が、自治会へ加入する手立てを施すことを期待する。</p>	
備考		

平成23年度 地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	交通安全マナーアップ事業	【No. 22】
申請団体	大野中地区交通安全母の会	
事業目的等	<p>独自のスタッフジャンパーを着用し、色々な場所で交通安全PR活動を実施することにより、区民の交通安全意識を高める。また、母の会の担い手育成へのきっかけづくりとする。</p> <p>更に、幼児、児童へ紙芝居などの読み聞かせを公民館まつり等を行うことにより親子への交通安全意識を高める。お年寄りの集まりにも訪問し、交通安全を訴える。</p>	
交付決定日	平成23年 7月20日	
交付決定金額	150,000 円	(全体事業費 150,000 円)
団体実績報告	<p>◇ 事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全紙芝居の読み聞かせをする機会を増やすことで少しでも交通事故の減少を目指している。 ・そのため今年度は、公民館で行われる行事に積極的に参加し、親子で交通安全に関する紙芝居の読み聞かせを行った。 ①大野台公民館こどもまつり 平成23年11月27日(日) ②大野中公民館まつり 平成24年3月4日(日) ・その他、昨年作成したスタッフジャンパーを着用し、ふるさとまつりでの啓発活動や駅周辺にての街頭広報を行った。 <p>◇ 自己評価</p> <p>交通安全の紙芝居を行う本来の目的は、親子で交通安全のルールを学んでもらうことである。</p> <p>「交通安全は家庭から」と大野中地区のフレーズにあるように家庭で交通安全について話をしてもらいたい。</p> <p>読み聞かせを度重ねることで、子どもとのふれあいの楽しさを学ぶことができたと感じており、来年度も続けていきたい。</p> <p>また、今年度開催できなかったお年寄り向けへの活動も来年度は母の会OBの参加も募り、活動を広げていきたい。</p>	
市評価	<p>南区では小さいお子さんやお年寄りの自転車や歩行者の交通事故が多い中で、まずは児童やその親を対象に取り組み、着実に実績を残されている。</p> <p>自分たちで考え、準備や練習をして取り組んだことで、より真剣に訴えることができたものとする。</p> <p>次年度はその効果が結果(数値)として表れることを期待するとともに高齢者への働きかけも進めていきたい。</p>	
備考		